

2020年2月4日 決算説明会 質疑応答（抜粋）

Q：新型肺炎の事業への影響をどのように考えているか。2020年度計画へは織り込んでいるのか。

A：計画策定・公表とのタイミングもあり、新型肺炎の影響は本日公表した2020年度の計画に織り込んでいない。

新型肺炎は中国経済に影響を与え、その後、影響が我国の経済活動に伝播してくるため、当社顧客の間接資材購買への影響は時差があって顕在化してくるのではないかと考えている。

一方、中国から仕入れている商品は当社売上の一定規模を占める。顧客からの需要に応えることができるよう品揃えを維持する必要があるため、当社は商品調達先の国・地域の変更を必要に応じて実施する。

顧客の間接資材購買や当社の商品調達の状況把握に努め、適切な施策を適時に実施していく。

Q：鈴木代表執行役社長が米国親会社（Grainger社）の役員（オンラインビジネス担当）に就任するが、親会社が鈴木氏に期待していることは何か。

A：MonotaRO同様、米国親会社のオンライン事業売上の持続的成長と利益の拡大がミッションであると考えている。

米国・日本では国土の規模や産業構造が異なるが、MonotaROでの知見を米国のオンライン事業の成長にも活かしたい。米国親会社のオンライン事業の強化には数年は必要であると見ている。今回の就任によるMonotaROへの影響は無い。

Q：金融危機後の2010年以降、2013年度、2016年度、2019年度に3年サイクルで成長率が弱くなるように見える（説明資料P.24）。成長率が弱くなった2019年度の翌年となる2020年度の売上成長は改善しないのか。

A：計画は四半期毎にリピート率や顧客単価等を基に策定している。計画策定のベースとした2019年第4四半期は顧客の需要が弱い状況にあり、2020年1月から直ちに好転しないと考えた。

2020年度は当社サービスをより利用していただける新規顧客を必要なコストを掛けて獲得するとともに、既存顧客の売上成長へ向けた施策にも力を入れていく。高成長中の大企業連携事業も着実に伸ばしていく。

以上